

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア会議で運営者よりの話の中に理念に繋がる内容もあり、共有し実践している。	理念は職員や来訪者が目にするができるようリビングに掲げられている。毎月のケア会議で運営者は理念を踏まえた話をしている。議事録が作成されており、欠席者にも会議内容が周知できるようになっている。職員は掲げられている理念を目にし気持ちも新たに業務に入っており、理念を自分の言葉として具体的に語るができ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事等に参加したり散歩時の挨拶を交わしたり交流している。また、近隣の高齢者に食事を届けたりし密接に交流している。	地域の一軒として自治会に加入している。歌や踊り、ハンドベル演奏、傾聴ボランティア(月2回)、かつほれの会、紙芝居、腹話術など幅広い年齢層の方が来訪し交流している。日曜日に男性入居者との将棋指しに見えている方は他の入居者のためにもとギターを習って誕生会で披露し喜ばれている。高校生のヘルパー2級実習の受け入れをしており、散歩時には住民とも挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	思いはあるが現実的に貢献できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催し、行政・地域の方に報告・情報交換はしている。サービス向上に活かされるよう努力している。	家族代表、民生委員、ボランティア代表、市職員、地域包括支援センター職員をメンバーに奇数月に開催している。消防署や警察関係者の出席も考えている。会議では入居状況や活動状況を報告し、参加者と意見交換している。地域の情報を得る機会でもあり有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	折にふれ、連絡をとり協力関係が築けている。	市担当者からは法令に関することや感染症などの様々な情報がFAXで届けられている。介護保険の更新申請代行のため窓口を訪問し、調査員が来訪した時には本人の様子を伝えている。相談に行く時「どうしたんですか」と声をかけてもらい、親身になって相談に乗ってもらっている。介護相談員2名が年4回ほど訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	研修や会議での話し合い等で職員は入居者の行動を制限する具体的な行為やそれによる弊害を認識している。入居者が束縛されることなく、一人ひとりのペースで自由に暮らせる環境づくりに努めている。早朝から自宅に帰ろうとしている入居者に職員は家族と協力し、本人の思い通りの行動を支えている。本人にとってホームは寝る場所、いい場所だと思っている。玄関の施錠を含め拘束は行わないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	充分努めている。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員が研修などに参加しているが、活用できるまでに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の読み合わせ・合意と共に重要事項説明も書面を用い説明し、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価アンケートを通じ、外部者へ表せる機会となっています。運営に反映されるべく努力します。	入居者には分かりやすい言葉掛けで意見や要望を確認している。家族が来訪した時には職員から積極的に声を掛け、お茶と一緒に飲みながら本人の様子を伝えたり要望や心配事を伺っている。一人ひとりの一ヶ月間の様子を文書にし、各家族に報告している。家族からは毎日の様子が良く分かれると喜ばれている。入居者や家族からの意見・要望などは連絡ノートに記録し全職員が周知できるようにしている。検討が必要なものは皆で話し合い運営やサービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議などの場で職員よりの意見など運営者はよく聴き運営に反映できるよう努めています。	毎月のスタッフ会議には運営者や管理者を含む全職員が出席し、運営に関すること、重要なこと、ケアのことなど何でも相談し決めている。管理者もフロアに出ており職員とは気軽に話したり意見や気づきを聞くことができる。ケア会議やスタッフ会議で得られた意見、提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社労士の意見を聞き、研修をし、出来るだけ整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	種々研修に積極的に参加することを職員に勧め、機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修、会議等に積極的に参加し、職員の交流ネットワーク構築に努めている。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一対一の対話、傾聴し安心して過ごして頂けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画作成に当たっても、充分家族の要望に耳を傾けることが大切という意識を持って努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬意の念を持ち接して、信頼関係を持って生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折にふれ、家族に連絡し、共に支えあう関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や地元の知り合い、友人等の訪問、面会を歓迎している。	家族と共に外出し顔馴染みの美容院に出かける方や受診後自宅に立寄る方、法事のために外出する方など、家族の協力を頂きながら馴染みの関係を継続している。個人情報の保護に配慮した一人ひとりの面会ノートが用意されていて面会者は訪問の記録を残し家族にも分かるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小規模なので、いつものいつもの仲間であり、関わりをもち、支えあう意識が十分に感じられる。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性は大切にしている。相談にこられたりした場合は丁寧に対処している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位。意向把握に努めている。	入居者と係る時には一人ひとりの思いや意向について関心を払いながら接している。自分の思いを伝えられる入居者には具体的に確認している。難しい入居者には判断しやすい声掛けを行い「イエス又はノー(仕草でも)」で受け止めている。困難な方場合は家族の情報や日頃の様子などから本人本位に検討するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当荘見学に来荘時より、その方の生活履歴・意向など情報の聞き取りを行い、暮らしについての経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれより、日々申し送りなどを行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと家族の話し合い・看護師と家族の話し合いをもって、ケア会議に繋げ介護計画に反映するよう努力している。	本人や家族の生活に対する意向を基に職員の意見、気づきを加え、援助目標や具体的な援助内容を盛り込んだ介護計画を計画作成担当者が作成している。ケア会議では入居者のその時々状況を話し合っている。月ごとに評価し、遂行状況を確認しながら目標の期間に合わせた見直しを3~6ヶ月単位で行っている。本人の状態が変わったり、プランが実行できないなどの問題が生じた時にも見直し、現状に即したものに作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録が個別に記入されている。申し送りを通じケアに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズの答えるよう努力している。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のふれあいサロンへの参加、近所への散歩や、可能な範囲までの買い物など、なるべく地域になじめるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医師・適切な医療を納得のいく限り検討して支援している。	かかりつけ医は本人や家族の希望に沿っている。入居者が病気や負傷した場合には本人の主治医又は協力医療機関において適切な治療が受けられるよう支援している。通院や受診に関しては家族対応を基本としているが家族が都合がつかない時や緊急時には職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、職員一同指示を受け、適切な支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療関係者と情報の交換相談に努めている。病院側との関係作りにはもっと努めていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と時に応じて話し合っている。	重度化や終末期に関しては入居時にホームの出来ることを説明している。体調を崩し医療機関に移られた方はいるがホームでの終末期支援ケースはない。平均年齢87歳、最高齢は白寿を迎えている。家族の面会のたびに本人の状況を伝えたり、かかりつけ医との相談等の検討、助言もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の職員より、救急時の訓練を一年に二度行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	上記訓練を通じて職員が緊急時の対応を身に付けるよう努め、また地域に協力体制も求めている。	5月にホーム独自の夜間想定避難訓練を実施し、火元別にシミュレーションし避難経路を確認している。8月と11月には消防署の指導や助言を受けながら昼夜想定で消火や避難訓練を行っている。入居者も職員の誘導を受けながら避難訓練に参加している。入居者一人ひとりの災害時用ネームプレートが用意されている。飲料水、食品、介護用品などの備蓄もある。	

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を守られるよう心掛けている。	入居者に支援が必要な時には本人の気持ちになってさり気なく行い、誇りやプライバシーを損ねない対応に徹している。排泄や入浴支援時にはプライバシーを配慮し行われている。本人や家族から特別な申し出がない限り、入居者を苗字にさんをつけて敬意を持って呼びかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞いたりしながら、利用者本位の生活がなされるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の定期的利用、また日常的にも個々の保清に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る部分に手を貸していただき、食事作りしてもらったり片づけを手伝って頂いている。	ジャガイモやリンゴの皮むき、片付け、食器拭きなど入居者は出来ることを職員と一緒にやっている。献立は食材を見て決めているが魚や肉料理が重ならないようにしている。食材は地産地消を基本にしている。食形態は入居者の状態に応じて一口大キザミ、トロミなどで対応している。誕生会には小料理屋へご馳走を食べに行ったり、回転寿司などに行くこともあり、外食は入居者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養を充分に取れるよう提供している。水分摂取については充分気を遣っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、きちんとした口腔ケアをしている。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合った排泄の自立を常に心掛けています。	一人ひとりの排泄パターンや仕草を職員は把握しておりプライバシーに配慮しながら、さり気なく付き添いトイレでの排泄支援が行われている。尿意が曖昧な入居者には時間を見ながら誘導しトイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみポータブルトイレを使う方もいる。夜間の介助に関しては安眠を妨げないよう吸収のよいパットを使うなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握、記録記入、また、水分摂取に気遣いし予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の定めはあるが、楽しんで入浴できるよう職員一同心掛け、介助にあっている。	入浴日や時間を定めているがお風呂は週4日用意している。一日に4人が入っており、希望すれば入りたい時に入浴できる。「気持ちいい」、「明るいうちにお風呂に入って贅沢だ〜」、「三度の食事よりお風呂がいいね」と入居者には喜ばれている。温泉を楽しむ機会もある。強く拒む入居者には土、日曜日、家族の応援を受けて入浴していただくことがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう支援している。身体の状態に応じ、休息をとって頂いたり、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に十分に配慮し、支援できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いを持って生活に望めるよう、出来るお手伝いをしてもらったり、レクリエーションに参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ての外出・外泊支援。花見・ドライブ・温泉旅行などの行事を盛り込んでの外出支援をしている。	天気が良ければホーム周辺の住宅内を散歩している。行事外出としてドライブがてらお花見(桜、アジサイ、ラベンダー、藤など)、近隣の公園や池、名所へとお弁当やおやつをもって出かけている。秋には紅葉狩りや温泉旅行も楽しんでいる。ホーム内では補助具で自立していても外出時には車椅子使用が多くなってきた。ホームでは見せない表情や生き生きとした本人達の姿を見ることが出来る。外出は大きな楽しみであり積極的に機会を設けている。個別の希望があれば意向に沿った支援も行なっている。	

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いを預かっている。利用者は、外出時・通院等、職員に支払いを委ねている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の作成・送り支援。電話等ご家族からあった場合は、つないで話したりして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁飾りなどを利用者と一緒に作成し飾り付けをしている。穏やかな空間作りに努めている。	入居者が一日の多くを過ごしているリビングの壁には折り紙の花や塗り絵のチューリップが並び一足早い春が訪れている。徐々に集まった入居者は手作りの梅干をつまみにお茶を飲み、ビデオを見ながらラジオ体操と、職員に促されることもなく自主的に行動している。高窓からは明るい陽が差し込み、庭木や隣家が見える。暖かなリビングには何時も誰かがいて居心地良く過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたりつい立て仕切りをつけ空間作りに工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人一人の居室は、本人や家族の意向をとり入れ、工夫している。	一階に3室、二階に5室あり、昇降はエレベーターを使っている。居室には家族写真、社交ダンスのスナップ写真、折り紙のブーケ、色紙の誕生祝カードなどが飾られている。衣装ケース、椅子やテーブル、テレビ、ソファなどが持ち込まれ、居室は一人ひとりが自分の居場所として安心して過ごせるようになっている。各居室の暖房はオイルヒーターがセットされており安全面への配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなど建物内に配置。それぞれが安全に生活できるよう配慮している。個々の身体能力に応じた対応を職員も心掛けている。		